

日本 DMAT 隊員養成研修をおえて

初期診療・救急科 邑田 悟 2015/07/29～08/01 兵庫県災害医療センターにて

DMAT とは、Disaster Medical Assistance Team の略で、地震や津波等の自然災害は勿論、多数の傷病者が出る自動車事故や列車事故、飛行機事故等の災害時に素早く行動出来る専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームの事です。医療者であっても、実際に遭遇する事が少ないながら、いざという時に対応出来る様にとの思いで受講を希望していました。

数年前から希望を出し続け、ようやく受講の通知がとどいたのが今回報告させていただきます「日本 DMAT 隊員養成研修」です。

丁度、今年の 4 月 1 日に当院も災害拠点病院に認定されました。

病院も私一個人も災害医療に向かって進んでいく年にしたいと思います。

西日本の様々な府県からの参加があり、我々京都チームは京都府立医大から看護師、京都第一赤と公立南丹病院から調整員、そして私が医師として合計 5 名の混成チームでの参加になりました。

研修は 4 日間に渡り、文字通り朝から晩までの講習でしたので、京都から比較的近い神戸での開催でしたが、神戸に宿泊しながらの受講となりました。

研修は内容を細かく分けての講義を中心に、その都度机上でのシミュレーション等が入り受講生が学び易く出来ていたので、講義中に熟睡する事も、内職する事も、他の事を考える事もなく 4 日間で過ぎていきました。

災害医療では現場でどのように医療を提供するかを学ぶ講習だと思っていましたが、実際は指揮系統の樹立、患者の広域（主に被災地域外への）搬送、情報発信と情報収集など、予想と

は違った内容が盛り沢山でした。それらの講習は受けていくにつれ、重要さがわかって来て、実際に最終日の実習では情報の収集と管理、指揮系統の大切さを痛感する事になりました。3 日目の午後にはそれまでの 2 日半の総まとめの筆記試験と実技試験がありました。個人的



会場の兵庫県立災害医療センター



机上でのシミュレーション

には大きなミスがありましたが、何とか全員合格を頂きました。そしてその夜は研修の目玉の一つ、懇親会。各県の参加者、講師の先生方、スタッフの皆さんと一緒に熱く語り合ったり、芸を披露したりして、翌日に控えた実習へ勢いをつけて3日目が終了しました。



懇親会での京都チーム 芸が一番でした！

4日目は場所を移して、兵庫県広域防災センターでの実習になりました。ここでの実習では、救急隊、救助隊にお手伝いいただいたの救護所シミュレーションと、SCU (Staging Care Unit)シミュレーションでしたが、どちらも本番と錯覚するくらいの緊張感と難易度を持った実習となりました。(本番はもっと複雑・緊張・困難かつ長時間に渡るものでしょう。)

35℃を超える暑さの中、我々受講生も、傷病者役の学生ボランティアの方もスタッフの皆様も、自分たちが熱中症患者とならない様に、1時間にペットボトル1本を消費するくらいの水分補給をしながら実習に望みました。4日間に渡る研修で京都チームはもちろんの事、他府県のチームも一緒に学び合ったおかげで合同での実習でのチームワークは上手く行ったと思います。



救助隊、消防隊の協力のもとでの実習



研修を終えた京都チーム

災害は起こらないにこした事はありません。病気もならないにこした事はありません。しかし残念な事に起きてしまう事もあるのです。そんな時に適切に対応出来、可能な限り命を救い、後遺症を減らし、人の役に立ちたい。医療人として新鮮な気持ちで研修をする事ができた4日間でした。

(研修終了後、近くの温泉施設 HAT なぎさの湯で疲れと汗を流し、神戸牛ステーキを堪能して帰路につきました。)

今回の研修で学んだ事は本当に DMAT 隊員としての初歩だと思います。今後、各地で開催される研修や訓練に、タスク、受講生として参加して、研鑽を積んで参りたいと思います。そして、あってはならない事ですが、万が一災害が起きた時には迅速かつ十二分な活動が出来る様、準備をしていきたいと思っています。

文責 邑田